

暮らしに役立つ確かな情報をお知らせ

上手な暮らし塾

自治会

地域を元気に！あなたの町の自治会 〜十人町一の組自治会〜

住みよいまちづくりのため、さまざまな活動をしている自治会。災害への備えを通じて、地域の皆さんが安心して暮らせるように取り組んでいる自治会もあります。

十人町一の組自治会では、5月に地元の社会福祉法人「みのり会」や純心大学の学生、日赤長崎支部の皆さんと一緒に「防災訓練」を行いました。八木一郎自治会長に伺いました。

—この訓練は毎年しているのですか？
平成20年から、各団体の皆さんと、毎年訓練をしています。

十人町は昔ながらの斜面のまちで階段も多く、体が不自由なお年寄りもたくさん住んでいます。いざというときの備えが大切なんです。

—今回の訓練の内容は？

台風上陸時の避難訓練です。

地域の緊急連絡網や、手助けが必要ななどの情報は、地域をよく知る自治会が中心となって行いました。

また、避難誘導



や避難所の運営、炊き出しなどの訓練は人手や体力が必要となりますが、各団体のかたの積極的な支援をいただき、とても心強かったです。

—参加したかたの様子は？

実際に動いてみて、普段通っていた道が、介助をしながらだと通りにくかったり、避難所開設に予想以上に時間がかかったりと、初めて気付くこともありました。

また、自治会だけでなく、さまざまな団体のかたとも、お互いの強みを生かすことで、助け合いがしやすくなることを改めて実感できたと思います。

もしもの時にもうまく避難できるよう、これからも地域のみんなで訓練を続けたいと思います。

八木会長ありがとうございました。

風水害が心配される季節です。いざというときは、地域での助け合いがとても大切になります。あなたができることはありますか。一歩踏み出して、あなたの町の自治会を、少しのぞいてみてはいかがでしょう。

■問い合わせ

自治振興課 ☎8229・1134

消費者

いまだに減らない振り込み詐欺 〜それって本当に公的機関から？〜



を絶たないどころか、近年増加の傾向にあります。

この還付金詐欺は、「期限が今日まで」などとせかし、警戒が厳しい金融機関ではなく、コンビニやスーパーのATMへ誘導するケースが見られます。

「公的機関が還付手続きや手数料振込みの名目でATMでの操作を求めるとはありません」ので、ご注意ください。

また、最近では、公的機関の職員を装った電話で、手続きのためと称して指定したフリーダイヤルにかけさせて、個人情報盗み出そうとする事例もあります。すぐに信じて電話をかけることがないようにして、必ず、市役所などに電話連絡して事実かどうかを確認するようにしてください。

おかしいなと思ったら、一人で悩まずに、消費者センター、警察や家族、知人のかたにご相談ください。

■ご相談は消費者センター（メルカフ）きまち4階、相談専用 ☎8229・1234へお気軽にどうぞ。受け付けは午前10時〜午後5時です。月曜日休業（祝日の場合、直後の平日）。

土・日・祝日も相談できます。

これは「還付金詐欺」と呼ばれる、いわゆる振り込み詐欺で、被害が後

衛生

おいしくて安全な 水を飲むために



水質管理のすすめ

夏は気温が高く菌が繁殖しやすくなります。水質管理に気を配り、おいしい水を飲みましょう。

■井戸水・わき水の管理

井戸水やわき水などは、周囲の状況により水質が変化しやすいので、特に注意が必要です。濁りやにおい、味などに気をつけ、異常を感じたらすぐに飲むのをやめて、生活衛生課へご相談ください。



- 年に1回以上、定期的に水質検査(左記参照)を受けてください。
- 飲むときは、できるだけ消毒するか、煮沸しましょう。
- 水源の周辺はいつも清潔に。柵などを作って鍵をかけ、猫などの小動物の進入や、いたずらを防止しましょう。

水質検査 検査したい水で中をよくすすいだ容器に1.5リットル以上入れて、保健環境試験所4階(茂里町

命救助

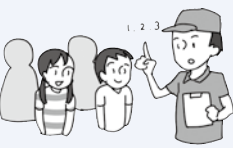
水の事故を防ごう



この季節は水の事故が最も多くなる時期でもあります。事故を防ぐには、個人の「心構え」と周りの人の「注意・関心」が大切です。泳ぎに自信があっても「浅いから」とか「今まで大丈夫だったから」と慢心すると重大な事故につながります。事故に遭わないためのポイントを確かみましょう。

泳ぐときのチェックポイント

- 必ず準備運動を
 - 飲酒後や睡眠不足など体調がすぐれないときは泳がない
 - 子どもを引率するときは、こまめに人数を把握する
 - 小さな子どもにも、必ず大人が付
 - き添い、目を離さない
- 海や川で泳ぐとき**
- 風や高波、潮の流れなどを確認する
 - 砂の中にある割れたガラスに注意
 - 急に深くなるところで泳がない



●監視体制や救助体制が整っているところで泳ぐ

プールで泳ぐとき

- プールサイドは走らず、走り飛び込みなどの無理な飛び込みはしない
- 排水口や循環口に近づかない



海のレジャーでのチェックポイント

- 釣りや船遊びなどを楽しむとき
- ライフジャケットを着用する
- 携帯電話(防水型や防水パック使用)などを携帯する
- 水難事故を見つけたとき

●目を離さず、大声で周りの人を呼ぶ
※119番通報。海での事故は118番

- なるべく陸上からの救助を試みる
- 単独ではなく、複数人で救助する
- 素手ではなく物(ペットボトル、棒、ロープなど)を利用して救助する



■問い合わせ

消防局警防課(☎8222・0448)